



国立病院機構  
南九州病院

地域がん診療病院 日本医療機能評価機構認定病院

【院是】『病む人に学ぶ』  
患者さんとともに、安全で良質な、  
理想の医療の実現を目指します。

URL <https://minamikyusyu.hosp.go.jp/>

発行：独立行政法人 国立病院機構 南九州病院 Vol.42

2026 春号

VOL.42

国立病院機構理念

国民一人ひとりの健康と、我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに患者の目線に立つて懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。



MINAMI KYUSHU HOSPITAL

# だより Nankyu EVOLUTION 2026



## Contents

**NANKYU TOPIC 1** 循環器内科  
心臓リハビリテーションについて…………… 4

**NANKYU TOPIC 2** 呼吸器内科  
ここまで進んだ肺がん診療…………… 4

**NANKYU TOPIC 3** 外来  
通院で行うがん治療を支える看護…………… 5

**NANKYU TOPIC 4** ACPプロジェクト  
外来で大切にしている「人生会議」…………… 5

**NANKYU TOPIC 5** 認定・特定看護師活動推進センター  
「判断力×やさしさ」…………… 6

**NANKYU TOPIC 6** 特定行為研修センター  
令和7年度 特定行為研修修了式がおこなわれました …… 7

**NANKYU TOPIC 7** 地域連携・患者支援センター  
令和7年度 南九州病院 症例検討会開催報告 …… 7

**NANKYU TOPIC 8** 看護部  
始良・伊佐地区医療従事者向け「褥瘡ケア」研修を開催 …… 8

**NANKYU TOPIC 9** 企画課  
新サービス新築工事完成のお知らせ…………… 8

# NankyuEVOI

## 巻頭言

### 令和8年度が始まりました。



NHO南九州病院  
院長

園田 至人

昨年4月に病院長を拝命いたしましたので、ちょうど1年が過ぎたところです。

昨年度を振り返りますと

8月には霧島始良地区は夜間の予期せぬ豪雨に見舞われ、当院でも被災した職員も複数おりました。またご存じの通り世界情勢も不安定な状況にあり、ロシアとウクライナの紛争に加え、2月には米国、イスラエルのイラク攻撃をきっかけにホルムズ海峡が閉鎖され、原油の輸入制限により日本も大きな影響を受けています。医療の現場でも輸液セットの不足、燃料等の高騰等、運営費用の上昇等が懸念されています。

当院の昨年度の病院目標は ①経営の改善 ②教育活動の推進、人材の育成 ③地域医療への貢献、医療連携の強化でした。経営に関してはコロナ禍以

降の入院患者数の減少、諸費用の上昇等で厳しい結果となりました。今年度は何とかして経営状態を安定させ、職員の教育、研修、医療機器の整備等を充実させていきたいと考えています。教育活動については、特定行為研修センターを引き続き運営、地域の医療機関からの受け入れも含め看護師のスキルアップに努めていきたいと思っております。地域医療への貢献、連携の強化に関しては、当院の特徴を生かし専門医療を提供できる体制を維持、地域の医療水準の向上に繋げていく所存です。新しい取り組みとして、昨年度から計画開始しています発達障害の早期診断、早期介入を実現すべく、行政、医療機関、教育機関と連携を進めて参ります。神経疾患でも神経難病、筋ジストロフィーに加え、昨年度同様、初期アルツハイマー病への抗Aβ抗体による治療を継続いたします。また循環器内科中心に高齢者救急も充実させる予定です。放射線科医による迅速な画像診断、霧島始良地区での唯一の高精度放射線治療(IMRT)等、さらに当院の歴史でもある呼吸器疾患治療、また循環器、消化器、糖尿病内科、緩和医療の診療体制も維持して参ります。

コロナ禍以降、医療機関の減収、経営状況は非常に厳しいものがありますが、地域の医療機関の皆様と連携を密に保ち、共にこの難関を乗り越えていこうと思っております。

今年度も南九州病院へのご協力、よろしくお願ひ申し上げます。



# EVOLUTION 2026

## 2026年度 新任医師



循環器内科部長  
宮内 孝浩

みやうち たかひろ

所属部署 循環器内科  
前任地 鹿児島厚生連病院  
趣味 全国の城・城跡めぐり  
ひとこと 2年ぶりに南九州病院に帰ってきました。よろしくお願ひ致します。



循環器内科医長  
上坊 翔太

うえぼう しょうた

所属部署 循環器内科  
前任地 星塚敬愛園  
趣味 バドミントン  
ひとこと 一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひします。



呼吸器内科医師  
下馬場 健一

しもばば けんいち

所属部署 呼吸器内科  
前任地 鹿児島大学病院  
趣味 ゴルフ  
ひとこと 質の高い呼吸器診療を提供できるよう、一生懸命頑張ります。



小児科医師  
平野 京香

ひらの きょうか

所属部署 小児科  
前任地 鹿児島大学病院  
趣味 子供と遊ぶこと  
ひとこと 早く仕事を覚えられるように頑張ります。よろしくお願ひします。



脳神経内科医師  
内村 謙吾

うちむら けんご

所属部署 脳神経内科  
前任地 藤元総合病院  
趣味 料理、お酒  
ひとこと 気軽に相談できる医師を目指します。



呼吸器内科医師  
三好 美友

みよし みゆう

所属部署 呼吸器内科  
前任地 鹿児島大学病院  
趣味 おいしいものを食べる、ランニング  
ひとこと 精一杯頑張りますので、よろしくお願ひいたします。



呼吸器外科医師  
村井 翔一

むらい しょういち

所属部署 呼吸器外科  
前任地 熊本赤十字病院  
趣味 バドミントン  
ひとこと よろしくお願ひいたします。



脳神経内科医師  
池之上 博任

いけのうえ ひろと

所属部署 脳神経内科  
前任地 恒心会 おぐら病院  
趣味 ゲーム  
ひとこと よろしくお願ひします。



脳神経内科医師  
青山 真祐奈

あおやま まゆな

所属部署 脳神経内科  
前任地 今村総合病院  
趣味 旅行  
ひとこと 地域の皆さまのお力になれるよう努めますのでよろしくお願ひします。

## 心臓リハビリテーションについて

当院では心臓リハビリテーション(心リハ)を行っています。心リハは、循環器疾患における重要な包括的リスク管理プログラムです。多職種連携による介入は、心血管死を約25%抑制し、再入院率を最大40%減少させます。心機能の改善のみならず、末梢の骨格筋代謝や血管内皮機能を改善することで、心臓に過負荷をかけず運動耐容能を底上げすることができます。また、心不全増悪の予兆をいち早く察知する高度なモニタリング・プラットフォームとしても機能します。急性期で救った「命」を、QOLを伴った「人生」へと繋ぐこのバトンパスは最新薬にも劣らない必須の処方箋です。再入院のメリーゴーランドを止める鍵を是非活用いただきたいと思います。



## ここまで進んだ肺がん診療

肺がん治療はここ20年程度の期間で大きく進歩し、従来の「手術・放射線・抗がん剤」という三本柱に加えて、免疫療法や分子標的治療などの新しい治療法が登場しました。これらの進歩により、進行肺がんでも長期生存が期待できる患者が増えてきています。

一つ目は分子標的薬の発展です。肺がんの一部では特定の遺伝子異常(ドライバー遺伝子)によって増殖していることが分かっており、EGFR、ALK、ROS1、BRAF、MET、RET、KRASなどの遺伝子変異を標的とした薬剤が開発されています。これらの薬は、該当する遺伝子変異を持つ患者では高い奏効率を示します。

二つ目は免疫チェックポイント阻害薬です。これは、がん細胞が免疫から逃れる仕組みを解除し、患者自身の免疫ががんを攻撃できるようにする薬です。現在の進行非小細胞肺がんの一次治療では、化学療法と免疫療法の併用が標準治療となっています。これにより従来の化学療法単独と比べて生存期間が延長することが示されています。

三つ目の注目分野は抗体薬物複合体(ADC)です。これは抗体製剤と抗がん剤を結合させた薬で、抗体ががん細胞の特定のターゲットを認識し、抗がん剤が標的細胞に選択的に運ばれ細胞内で薬物が放出されることで、がんを効果的に

攻撃します。最近ではHER2を標的とするトラスツズマブデルクステカンが承認され、実臨床でも使用され始めています。さらに、T細胞とがん細胞の両方に結合し、免疫細胞に直接がんを攻撃させる二重特異性抗体など、新しい治療も登場しています。

また近年は、血液中の腫瘍由来DNA(ctDNA)を利用したリキッドバイオプシーなど、新しいバイオマーカー技術の発展も進んでいます。これらは遺伝子異常の検出だけでなく、治療効果のモニタリングや再発の早期検出にも応用されつつあり、今後の診療において重要な役割を担うと考えられています。

このように肺がん治療は、分子生物学的理解の進展とともに大きく変化してきました。多様な選択肢の中から患者ごとに最適な治療戦略を選択することが、現代もそしてこれからも肺がん診療に求められている重要な視点といえるでしょう。

## 通院で行うがん治療を支える看護

— 外来での抗がん剤治療を安心につなぐ取り組み —

近年、肺がん治療は大きく進歩し、外来で抗がん剤治療を受けることが一般的になっています。当院でも多くの患者さんが、仕事や家庭生活を続けながら通院で治療を行っています。私たち看護師は、患者さんが治療と日常生活を両立しながら安心して過ごせるよう、日々のサポートに力を入れています。

外来治療では、ご自宅で過ごす時間が長くなるため、体調の変化を早く察知し、必要な支援につなげることがとても重要であると考えています。治療開始前には、薬の効果だけではなく、副作用の特徴や日常でできる対処法について、ご本人とご家族に対して丁寧な説明を心がけています。不安を抱えたまま治療が始まらないように、疑問や心配ごとを一つずつ解消し、治療に向けて安心できる環境を整えることを大切にしています。

治療が始まると、問診を通して治療後の日常生活の変化やバイタル測定を通して患者さんの状態を細かく観察し、わずかな変化も見逃さないよう注意深く評価します。抗がん剤治療では、吐き気、倦怠感、食欲低下、骨髄抑制などの副作用がみられることがあります。このような症状に対して、生活リズムの整え方、食事の工夫、感染予防のポイントなど、日常に取り入れやすい方法を患者さん一人ひとりと一緒に考え、無理なく続けられる形で提案しています。

また、治療中は身体だけでなく、気持ちの面での負担も大きくな

りがちです。不安や孤独感を抱える患者さんに寄り添い、必要に応じてご家族や友人とも連携しながら、その人らしい生活を守る看護を大切にしています。「治療を受けながらも自分らしく過ごしたい」という思いに寄り添うことが、私たち看護師の大切な役割だと考えています。

さらに当院では、医師はもちろん、薬剤師やソーシャルワーカーなど多職種が連携し、患者さんを包括的に支える体制を整えています。治療を続ける中で生じる生活上の困りごとや経済的な不安にも対応できるよう、それぞれの専門職が協力しながら、患者さんの暮らし全体を支援しています。

今年度も南九州病院では、地域に根ざした医療を実践し、患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりに努めてまいります。当院で抗がん剤治療を受ける方が、治療と生活の両方に希望を持ち、自分らしく過ごせるよう、看護師一同、心をこめてサポートしてまいります。



## 外来で大切にしている「人生会議」

— 南九州病院のACPの取り組み —

「家で過ごせるうちは家にいたいんですよ。」

外来で患者さんとお話をしていると、このような言葉を耳にすることがあります。診察の合間の何気ない会話の中には、その方が大切にしている生活や思いが込められています。私たち外来看護師は、こうした言葉を大切に受け止めながら、患者さんのこれからの生活や医療について一緒に考える関わりを大切にしています。

近年、「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」という取り組みが医療の現場で広がっています。ACPとは、将来の医療やケアについて、患者さんご本人を中心に、ご家族や医療・介護に関わる人たちと話し合いながら考えていく取り組みで、「人生会議」とも呼ばれています。

南九州病院の外来には、呼吸器疾患や神経・筋疾患などの慢性疾患を抱えながら、長く通院されている患者さんが多くいらっしゃいます。治療を続けながら日常生活を送っている方や、在宅酸素療法などを行いながら生活されている方など、それぞれの生活の中で療養を続けておられます。外来は、患者さんが日常生活を送りながら医療と関わり続ける大切な場所でもあります。外来看護師は、診察の前後や処置の合間などの短い時間の中でも、患者さんの体調だけでなく生活の様子や気がかりなことを伺っています。「最近少し息切れが増

えた」「家族に迷惑をかけたくない」「できるだけ自分の家で過ごしたい」など、何気ない会話の中から患者さんの思いや価値観が見えてくることがあります。

南九州病院では、院是である「病む人に学ぶ」の精神を大切にしながら、患者さん一人ひとりの思いに寄り添った医療を心がけています。外来で伺った患者さんの思いは、医師や多職種と共有し、必要に応じて入退院支援センターや地域の医療・介護機関とも連携しながら、その方に合った療養の形を一緒に考えていきます。

ACPは一度話し合って終わるものではなく、病状や生活環境、患者さんやご家族の気持ちの変化に合わせて、何度も話し合いながら見直していくものです。長く通院されている患者さんが多い外来だからこそ、継続した関わりの中で少しずつ思いを共有していくことができます。

これからも南九州病院では、外来から入院、そして在宅へと切れ目なくつながる支援を大切にしながら、患者さんとご家族が安心して療養生活を送ることができるよう取り組んでいきます。患者さん一人ひとりの思いを大切に、その人らしい人生を支える医療を、地域の皆さまとともに考えていきたいと思ひます。

## 「判断力×やさしさ」

## ＝特定看護師とは？＝

特定看護師は、特定行為研修を修了し、医師の包括的な指示のもと、あらかじめ定められた手順書に沿って特定行為を実施できる看護師です。患者さんのそばで継続的に状態を観察し、必要な医療をタイムリーに届けることを大切にしています。実施にあたっては、臨床推論をもとに情報を整理し、緊急度や重症度、優先度を判断したうえで、適切なタイミングで医師へ報告・相談しながら安全に進めます。さらに、医師をはじめとした多職種と協力し、治療とケアがスムーズにつながるよう調整するとともに、患者さん・ご家族の不安や希望をくみ取り、分かりやすい説明や意思決定の支援にも関わります。こうした役割を通じて、チーム医療の質の向上と、患者さんにとって安心できる療養環境づくりに取り組んでいます。

## ＝活動している主な分野＝

当院の特定看護師は、以下の領域で力を発揮しています。

## ● 呼吸ケア

気管カニューレ交換

人工呼吸器を使っている患者さんの評価・ケア

呼吸状態の観察

人工呼吸器の設定調整のサポート

排痰ケアや排痰ドレナージ方法を病棟看護師と一緒に考え実施・評価

## ● 創傷ケア(褥瘡など)

創部の状態評価

ドレッシング材の選択

感染兆候の早期発見

必要に応じた処置

適切なケアにより創傷治癒の促進

## ● ろう孔管理

胃ろう交換、膀胱瘻カテーテル交換の実施

瘻孔周囲の感染兆候の観察・早期発見

患者さんの状態に合わせて胃ろうの種類を検討、胃ろう交換時の苦痛軽減を目指し医師と連携している

## ＝スタッフ教育にも貢献＝

院内では、特定看護師が勉強会の企画・運営や経年別研修の講師を担い、現場事例を用いて「なぜその判断か」「次に何を優先するか」を言語化し、根拠に基づいて考え行動できる看護師の育成を進めています。OJTでも同行・助言と実践後の振り返りを通じて、アセスメントとケア構築のプロセスを共有し、日々の実践が学びにつながるよう支援します。

また、活動日には臨床推論トレーニングを取り入れ、観察・鑑別、報告・相談の組み立てを確認しながら対応力を高めています。これらはスタッフ教育に加え、特定看護師自身の質の維持・向上にもつながっており、実習協力施設として研修生の受け入れ・指導も行い、地域の看護の質向上に貢献しています。

## ＝特定行為シンポジウム開催＝

「地域医療を支える看護師特定行為～慢性期医療をささえる特定行為～」をテーマに、慢性期医療における特定行為の役割を地域で共有し、実践促進につなげる目的で企画しました。鹿児島県内の指定研修機関による輪番開催の一環として当院が担当し、2025年11月22日に南九州病院大会議室(会場)＋Webex(オンライン)のハイブリッド形式で実施しました。当日は会場40名、Webex約70名が参加し、鹿児島県保健福祉部による行政説明、特定看護師・看護管理者による講演および意見交換を行いました。来賓として始良市長の湯元敏弘様、鹿児島県保健福祉部 医師・看護人材課の古屋美咲様、鹿児島県看護協会会長の八田冷子様よりご挨拶を賜りました。

今村総合病院、千年メディカルクリニック、南九州病院、えんでん内科クリニック等より特定看護師・看護師長が登場し、各施設の取り組みや課題、今後の展望について共有しました。アンケートでは「取り組みを知り刺激になった」「目的・意義を再認識できた」「悩みを共有できた」など前向きな意見が多く、情報交換の場づくりや看護管理者向け研修、医療安全内容の充実、討議時間の拡大等の提案も得られました。今後も、慢性期医療を支える特定行為の実践推進と多施設連携を進め、特定行為の質向上と人材育成に寄与してまいります。



## ＝これからの取り組み＝

今後は、ショットガンプロジェクト(在宅医療)を推進し、活動の場を院内から在宅へ広げます。医療的ケア児者や神経筋難病など継続的支援を要する患者さんに在宅で特定行為を提供し、通院負担を軽減して住み慣れた環境での生活を支えます。あわせて、ご家族の付き添い・移動時間の負担軽減にもつながります。

また、受診の要否や優先度に迷う場合は、特定看護師が訪問して状態評価と必要なケアを行い、情報を整理して医師へ共有します。これにより、医師の訪問・受診が必要なケースを見極めやすくなり、タスクシフト/タスクシェアや早期発見・早期介入につながります。必要時に速やかに診察へつなぐ体制のもと、安全性を担保しながら地域で継続できる在宅支援と特定行為の実践を進めます。

## 令和7年度 特定行為研修修了式がおこなわれました

令和8年1月28日に、令和7年度特定行為研修修了式が行われました。令和7年度は、3期生の2名が研修を修了し、新たにリソースナースへ仲間入りしました。当院は令和5年より特定行為研修指定研修機関となり、呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連の、気管カニューレ交換が実施できる特定看護師を養成しています。今回研修を修了した3期生は、令和7年5月に入講し、まずはe-ラーニングや演習、実習を通して、すべての特定行為に共通して必要な知識を身につける「共通科目」を学びます。疾患や病態生理などの基本を学び、身体所見の取り方や、問診の仕方、薬理作用についてなど医学的知識を身につけます。そして、「区分別科目」として、実施できる特定行為についての学習、つまり気管カニューレの交換についての学習を行います。OSCE(客観的臨床能力試験)と呼ばれる実技試験を受け、病棟での実習を行います。特定行為研修で学ぶことは、決められた処置ができるようになるだけではありません。患者さんの状態をより深く理解し、安心して過ごしていただける看護につなげる力を育てることも大きな目的です。臨床における判断力や実践力を高め、より患者に寄り添った看護を提供し、また、その知識を病棟のスタッフへ伝え、共有することによりチーム全体でよりよい看護を目指してほしいと思います。

～修了生代表あいさつ～

特定行為研修生として、約8か月間医学的知識を身につけるために学んできました。修了の日を迎えることができましたのは、ひとえに多くの方々の温かいご指導とご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。研修を通して、医学的知識や技術だけでなく、判断の

根拠を持つことの重要性、そして患者さん一人ひとりに寄り添いながら、多職種と連携し医療を提供する責任の重さを改めて実感しました。私たちは、本研修の修了を一つの到達点とすると同時に、新たな責任の始まりであると受け止めております。特定行為を担う看護師として、専門職としての自覚と倫理観をより一層強くもち、患者さんの安全と安心を第一に、質の高い看護・医療の提供に努め、患者に寄り添っていきたくと考えます。また、看護師としての役割拡大を地域医療の発展につなげることができるよう、日々研鑽を積んでいきたいと思っております。



## 令和7年度 南九州病院 症例検討会開催報告

～再開した症例検討会、地域をつなぐ対話と実践の場～

南九州病院 地域連携・患者支援センターは、令和8年2月4日、南九州病院大会議室およびWeb配信によるハイブリッド形式で「令和7年度第1回 症例検討会」を開催しました。令和元年以降は感染症流行の影響で開催を見合わせていましたが、このたび再開することができ、地域の皆さまと改めてつながる大変意義深い機会となりました。当日は地域医療機関の医師、看護師、コメディカル、介護・福祉関係者、当院職員など計106名の参加が頂けました。本検討会は、南九州病院と地域医療機関が共通症例をもとに課題を共有し、急性期から在宅まで切れ目のない支援を実現するために、多職種の役割や連携の在り方を確認することを目的に開催したものです。当日は3部構成で、第1部では在宅療養を見据えた当院の取り組み「南九州病院ショットガンプロジェクト」、第2部では患者・家族の意向を尊重した多職種連携の実践、第3部では

がん患者を支える腫瘍循環器診療について報告しました。会場・Web双方から質問や意見が相次ぎ、立場を越えた活発な意見交換が行われ、地域完結型医療の推進に向けて実践的な学びを深める場となりました。次回は、令和8年5月27日(水)開催予定です。テーマは、意思決定支援(ACP)、軽度認知障害(MCI)患者への早期介入における包括的アプローチ、地域医療機関との連携治療が変化した症例報告

今後南九州病院は、地域医療機関の皆さまと連携を深めながら、患者さんとご家族に寄り添った切れ目のない支援の充実に努めてまいります。引き続きご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



## 始良・伊佐地区医療従事者向け「褥瘡ケア」研修を開催しました

令和8年2月28日、当院とオンラインを繋いだハイブリット形式にて、始良・伊佐地区の医療従事者を対象とした「褥瘡ケア研修」を開催しました。

当日は、会場に足を運んでくださった方々と、オンラインで参加くださった方々をあわせ18名の参加となりました。

研修の目的を「患者の療養生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する」とし、皮膚排泄ケア認定看護師による「褥瘡とは」「褥瘡で使用する創傷被覆材・薬剤について・創傷被覆材の貼り方、交換間隔・褥瘡を治癒する様々な薬剤治療等」。理学療法士による「褥瘡のポジショニングについて・予防ケアのポジショニング」。栄養士による「栄養管理・栄養状態の判断を何で行う、栄養をどのように補う」。等の講義を行い、最後に「創傷のある患者のケアを考えよう」というテーマのもとワークを実施しました。

2時間半という短い時間での研修ではありましたが、研修生

からは「知らない情報もあり参考になった」「褥瘡ケアのポジショニング方法など学ぶことができよかった」「もっと事例を多くしてほしい」「より実践的な内容もいれてほしい」など多くのご意見をいただくことができました。

患者をとりまく始良・伊佐地区の医療施設や訪問ステーションに従事する方々が職種を超えて、一貫したケアを提供することが褥瘡の予防やケアには必要不可欠です。

今後、地域での連携や、継続的な処置について判断に迷うことがあれば、当院の皮膚・排泄ケア認定看護師へいつでもご相談ください。今後も、地域の方々と一緒に学びを深めることのできる研修を企画・運営していきたいと考えております。次回も多数のご参加をお待ちしております。



## 新サービス新築工事完成のお知らせ



令和7年4月より建設を進めてまいりました「新サービス棟新築等整備工事」につきまして、このたび建物が完成いたしましたのでお知らせいた

します。本サービス棟には、栄養管理室、厨房室、ボイラー機械室、洗濯室を整備し、給食業務および施設運営機能のさらなる充実と効率化を図っております。これにより、日々の食事提供体制の強化や衛生管理の向上、設備運用の効率化などが期待され、より安定した医療サービスの提供につながるものと考えております。また、各設備の集約・機能改善により、職員の業務負担軽減や作業環境の改善も図られており、院内全体の運営基盤の強化にも寄与するものです。本事業の実施にあた

りましては、関係機関の皆様ならびに地域の皆様の多大なるご理解とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。今後は、職員一同気持ちを新たに、安全で安心できる医療環境の提供と、より一層の患者サービス向上に努めてまいります。なお、今後の予定として、旧サービス棟の解体工事を行い、跡地は駐車場として整備する予定です。これにより来院される皆様の利便性向上も図ってまいります。工事は令和8年11月まで継続予定です。工事期間中は、騒音や通行制限等によりご迷惑やご不便をおかけいたしますが、安全対策に十分配慮しながら進めてまいりますので、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 南九だより 2026 春号 Vol.42 2026年4月 発行

発行：独立行政法人国立病院機構 南九州病院 〒899-5293 鹿児島県始良市加治木町木田 1882 TEL：0995-62-2121・FAX：0995-63-1807  
地域連携・患者支援センター(直通) TEL：0995-63-0843・FAX：0995-63-0840 編集発行人：東元 一晃

### 南九州病院 公式 SNS

日々の取り組みやイベント情報を発信しています。



@nho\_m\_kyushu



minamikyushu\_nho



NHO 南九州病院

公式 LINE も始めました！  
外来の休診情報や  
院内イベント情報等をお届けしています。

### VOL.42表紙

当院では、認定・特定看護師活動推進センター長である東元副院長を中心に特定看護師16名(B過程認定看護師)が院内外で活動しています。日々、患者さんのために切磋琢磨しています。



<https://minamikyushu.hosp.go.jp/>